資料1

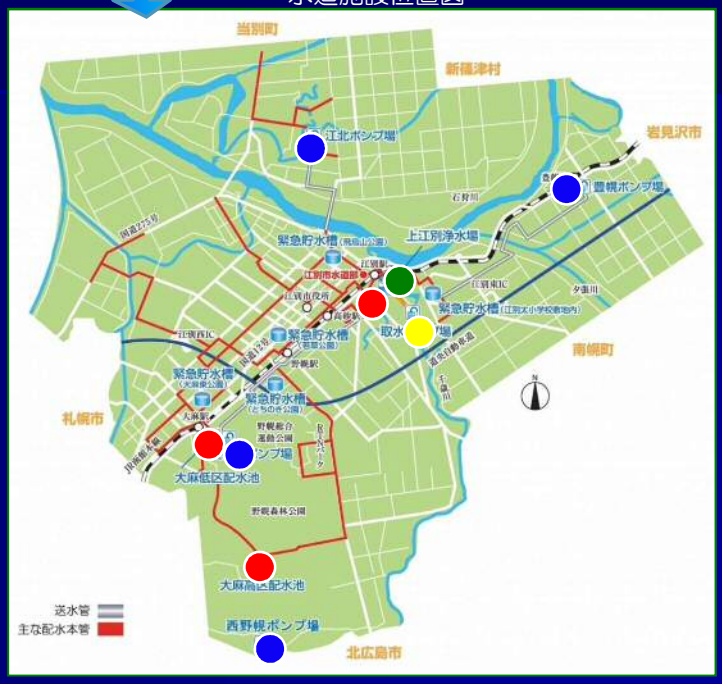
江別市水道事業について

江別市水道部水道整備課
平成29年8月２日

◆概要（水道施設位置図）

浄水場位置図

水道施設位置図



◆概要（江別市水道）　平成２９年３月末時点

行政区域面積　１８７．３８ｋｍ²
給水区域面積　１８７．３８ｋｍ²

行政区域全域が給水区域です。

江別市の人口　１１８,７８４人
給水区域内人口　１１８,７８４人
給水人口　１１８,４８８人
普及率　９９.８％

井戸水を使用している人が約３００人います。

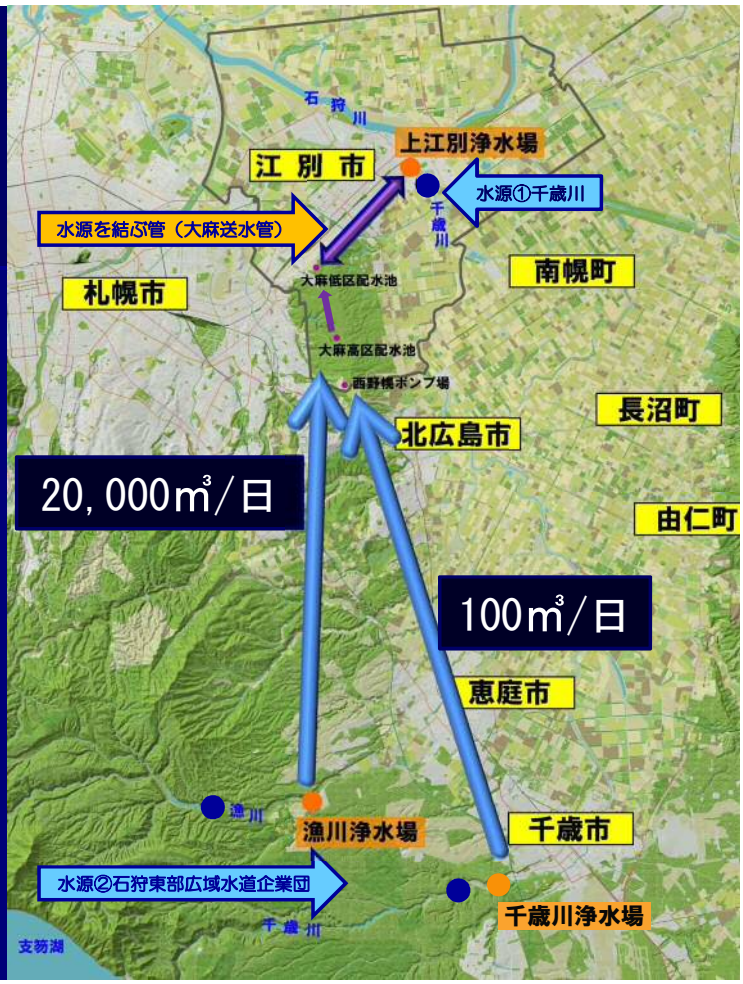
平成２８年度（Ｈ２８．４月～Ｈ２９．３月）
一日最大給水量　３３,９４３㎥　12月31日
一日平均給水量　２９,５２１㎥
一人一日平均給水量　２４９ℓ

通常、大晦日に最大給水量を記録します。（夏の暑い日に記録することもあります）

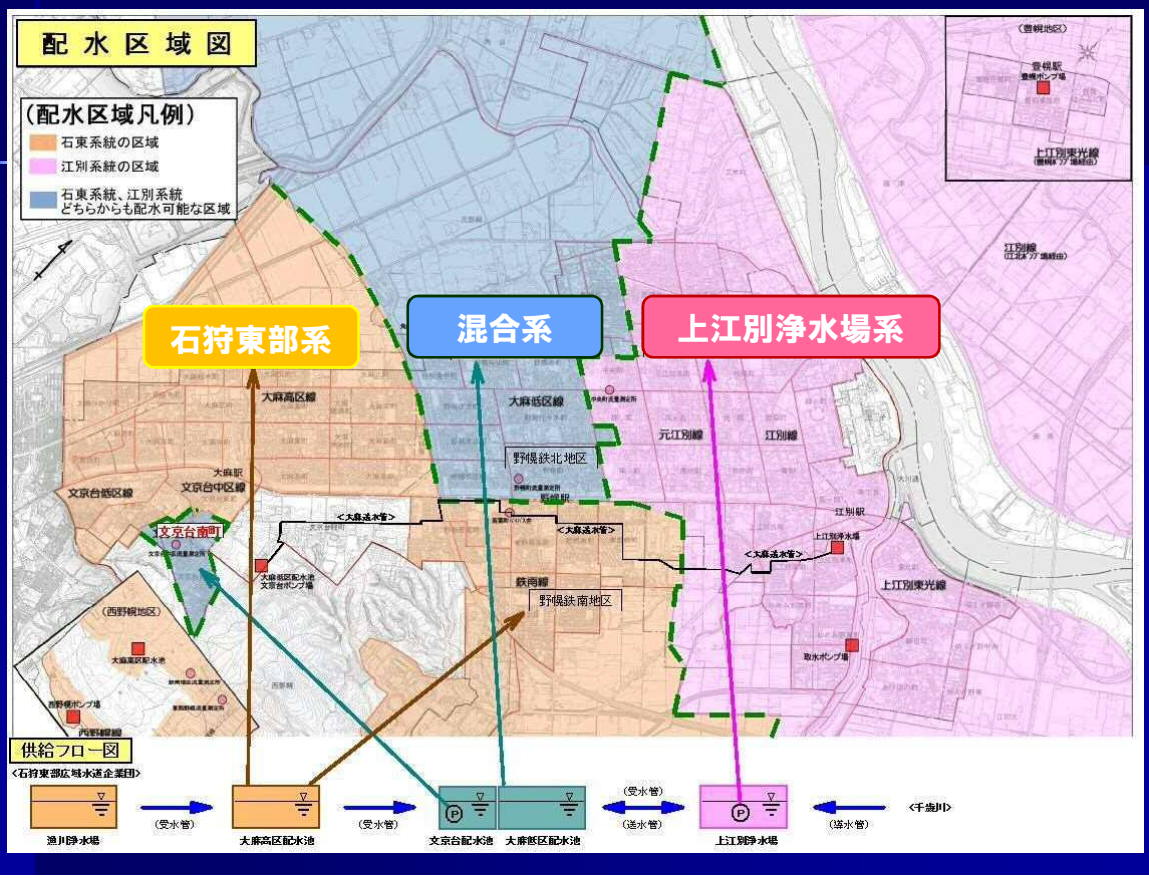
１人が一日で２４９ℓの水道水を使っている計算になります。

◆概要（水源）

水源①
千歳川
（36,000㎥/日）
水源②
石狩東部広域
水道企業団から受水
（20,100㎥/日）
漁川：20,000㎥/日
千歳川：100㎥/日



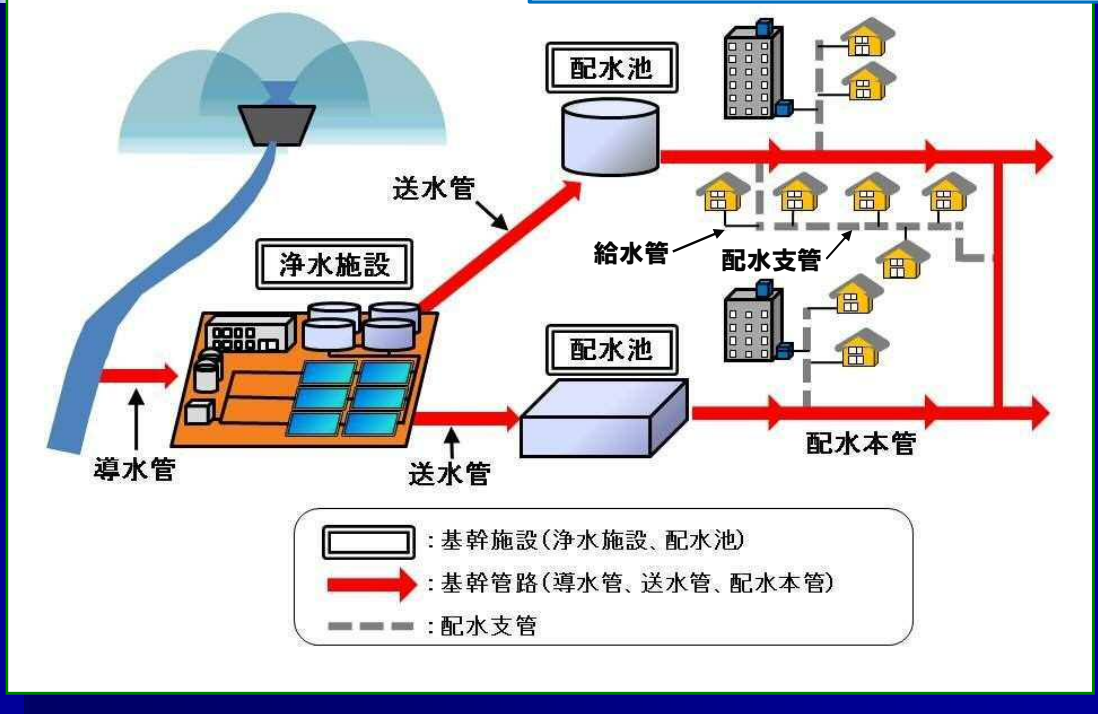
◆概要（配水区域図）



◆管路（種類）

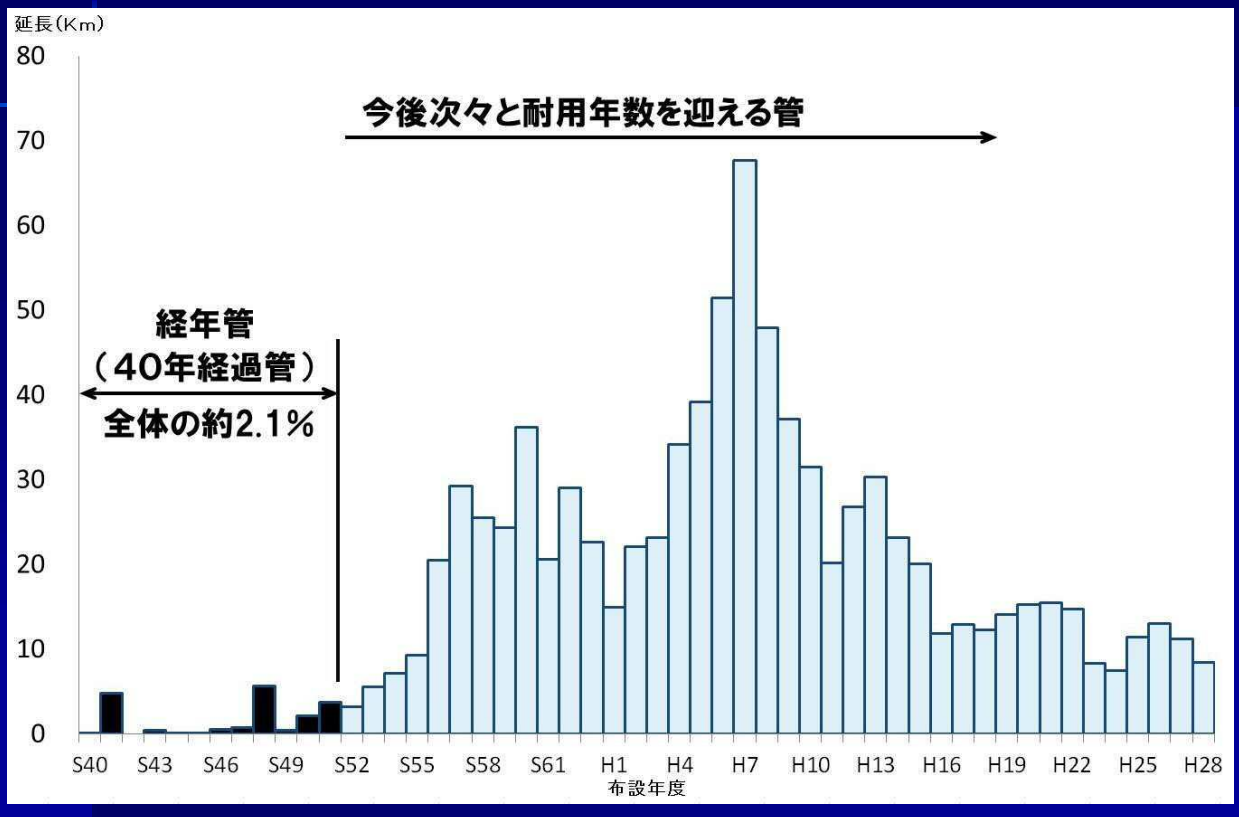
【市内の管路延長】（平成28年度末現在）

管路総延長		約 920 km
（内訳）	導 水 管	約 2 km
	送 水 管	約 10 km
	配水本管	約 95 km
	配水支管	約 813 km



◆管路（布設年度別延長）

水道管の布設年度別延長（平成２８年度末時点）



◆管路（耐震管）

地震に強い水道を目指します

水道管の更新・耐震化を推進

水道は私たちの暮らしに欠かせない重要なライフラインです。近年、相次いで起きた大きな地震では多数の世帯が断水し、給水再開までに数週間を要したと報告されています。

地震はいつどこで起こるかわかりません。もし大きな地震が起きて水道が止まってしまったら、飲み水はもちろんのこと、お風呂やトイレも使えなくなってしまいます。

地震に強い水道づくりに「耐震化」は、私たちの暮らしを守るうえで必要です。

市では、水道管の更新に併せ、耐震化を進めています。

水道管更新（耐震化）工事の様子

◆水道整備課 発注工事の紹介

①水道配水用ポリエチレン管
　耐用年数を向かえる配水支管の布設替工事

②ダクタイル鋳鉄管【ＮＳ形継手】
　基幹管路の耐震化工事

③その他
　使用しなくなった水管橋の撤去工事

◆水道工事（①水道配水用ポリエチレン管）

管布設状況

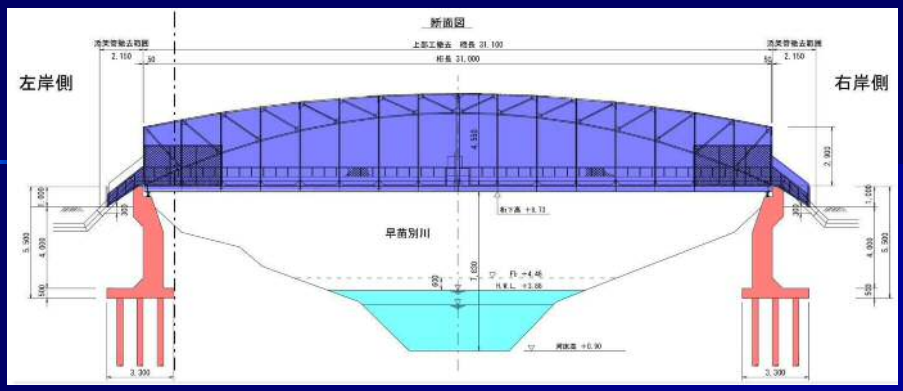
継手融着作業状況

継手部

◆水道工事（②ダクタイル鋳鉄管【ＮＳ形継手】）

管布設状況

◆水道工事（③早苗別第１水管橋撤去工事）



橋梁名：早苗別第１水管橋

架橋年・所在地：昭和36年（56年経過）　上江別東町

上部工形式：単径間ランガー橋　橋長　31.1m

下部工形式：橋台２基（杭基礎構造）

水道管：φ150・φ200　2条

上載総重量：20.13ｔ（水道管3.06ｔ　上部工鋼材17.07ｔ）

交差物件：2級河川早苗別川（北海道管理河川）

◆水道工事（③早苗別第１水管橋撤去工事）

水管橋全景

360トン　トラッククレーン

◆水道工事（③早苗別第１水管橋撤去工事）

上部工桁吊り上げ状況

下部工ブレーカー破砕状況

◆水道工事（③早苗別第１水管橋撤去工事）

全景

撤去状況

動画

◆おわりに

人口減少や節水意識の高まりにより、水需要が減少傾向にある中で、これまで整備してきた水道管は次々と更新の時期を迎えます。

現在の更新計画では、全国的な使用実績などを参考に可能な限り長く使うことを考え、**60**年を更新サイクルの基本として設定しています。

しかし今後は、老朽化する水道管が増える一方、更新のための財源確保が一層厳しくなることが見込まれます。

安心で安定した水道を次世代につなぐためには、更新工事を続けていかなければならず、老朽化の状態を見定めながら、優先すべき管を十分精査し、更新サイクルをさらに延ばしていく必要があります。

そして、更新の際には、耐震性の高い水道管を採用し、耐震化を着実に進めていきます。

ご清聴ありがとうございました

水道庁舎